

# 陸の豊かさを守ろう 植生を紐解き、人・文化・自然を紡ぎ直す



## キーワード

生物多様性, 植生管理, 保全, 根原草原, 弁財天川

## ○取り組んだきっかけ

遠州灘に注ぐ弁財天川で見つけた、良好な干潟を指標する植物ハマボウ。根原草原で出逢った、かつて富士山麓を特徴づけていたという草原性のチョウ類や草花。目にしてしまった感動を次の世代に残したい、この思いが取り組みのきっかけです。



草原性のチョウ、ヒメシジミ  
(環境省カテゴリ: 準絶滅危惧)



日本のハイビスカス、ハマボウ  
県下をはじめ、全国的に激減

## ○活動の目的

自然の素晴らしさは、時に、地域にとっては当たり前すぎて気づかれていないことがあります。現地調査によって良さや課題を顕在化する、地域の人に知っていただくことで人の営みの中で生物多様性が保全されるようになる、これが活動の目的です。



特産品「根原大根」の畑(緑)。畑としての利用と多様性の高い草原とが共存する、全国的にも珍しい草原。



干潟の上を跳ね飛ぶ魚、トビハゼ(環境省カテゴリ: 準絶滅危惧)。訪れた子供たちが、喜んで追いかける。

## ○期待される効果

SDGsの17の目標のうち、経済圏、社会圏の目標は生物圏に含まれる4つの目標が支えるといわれています。そして生物圏の目標のひとつ「陸の豊かさ」は、地域の人たちの理解を得て初めて守られます。

## ○具体的な内容

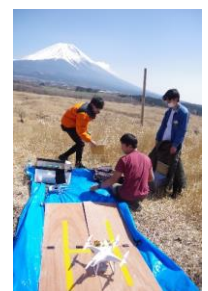
これまでの取り組みの中から、ゼミ生が卒業研究として取り組んだ事例をふたつを紹介します。

ひとつは、富士山麓に広がる根原草原の持続をめざした取り組みです。根原草原の特産「根原大根」畑の耕作を伝統的な手法で続けてきたことが、多様な動植物が生育・生息するススキ草原の持続を可能にしている、全国でも稀な草原であることを明らかにしました。また、県有地となった区域では森林化が進んでいて草刈りや火入れの継続が必須なことを明らかにしました。

※本活動は、公益社団法人ふじのくに地域・大学  
コンソーシアムの助成を受けて実施しました。  
詳しい成果は、常葉大学紀要をご覧ください(右)。



社会環境学部のフィールド巡検では、  
体験活動として草刈りを実施



植生解析のためのドローン撮影

もうひとつは、弁財天川に残るハマボウや干潟の動植物の保全をめざした取り組みです。ハマボウの県下における分布(過去と現在)を調べて、弁財天川は県下では数少ない自生地であることを明らかにしました。また、水位計を設置してハマボウの生育立地と大潮の満潮時の水位との関係についても明らかにしました。これらのデータをもとに、掛川市教育委員会に、市の天然記念物に指定して保全していくことを提案しました。



ドローンを使って、PR動画も作成



測量による保全のためのデータ収集

教員名	浅見 佳世
所属学部・学科	社会環境学部・社会環境学科
職位	准教授

連携先